



Japan Project-Industry Council

国土造りプロジェクト構想

地方開発プロジェクト計画 3

～SDGs時代の新たな地方活性化に向けて～

【四国ブロック】

～特色ある自然・文化・産業で魅力を世界へ～



2024年12月

JAPIC国土・未来プロジェクト研究会
四国ブロック総合開発ワーキンググループ

まえがき

わが国の国土の均衡のある発展を担った「国土総合開発計画」は、2005年に「国土形成計画」へと変更され、少子高齢化の成熟社会に向けた新たな内容へと転換を遂げた。同計画は8つの地域で国と都道府県が協働して「広域地方計画」が作成される二層構造が特徴である。但し、これまでの広域地方計画では、新たな発展構想が必要な地域が取り残されているものも見受けられる。

本提言は、そのような地域に焦点を当てた地域圏域計画を民間から提言するものである。

その第三弾として、四つの県が独自の特徴を有し、多彩な自然や文化を持ちながらも、世界的にはハワイ、マヨルカ、マルタといった島々に比べ、知名度が低い「四国」を検討の対象とした。

ポテンシャルの高い一次産業や、四国遍路に代表される文化・歴史遺産といったこの地域の特性を最大限に活かすため、SDGsに配慮しながら、経済の再活性化と人口減少問題にも対応するための新たな地域圏域計画を構想したものである。私たちの構想が同じような状況に置かれている全国の地域圏のモデルになれば幸いである。

日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）

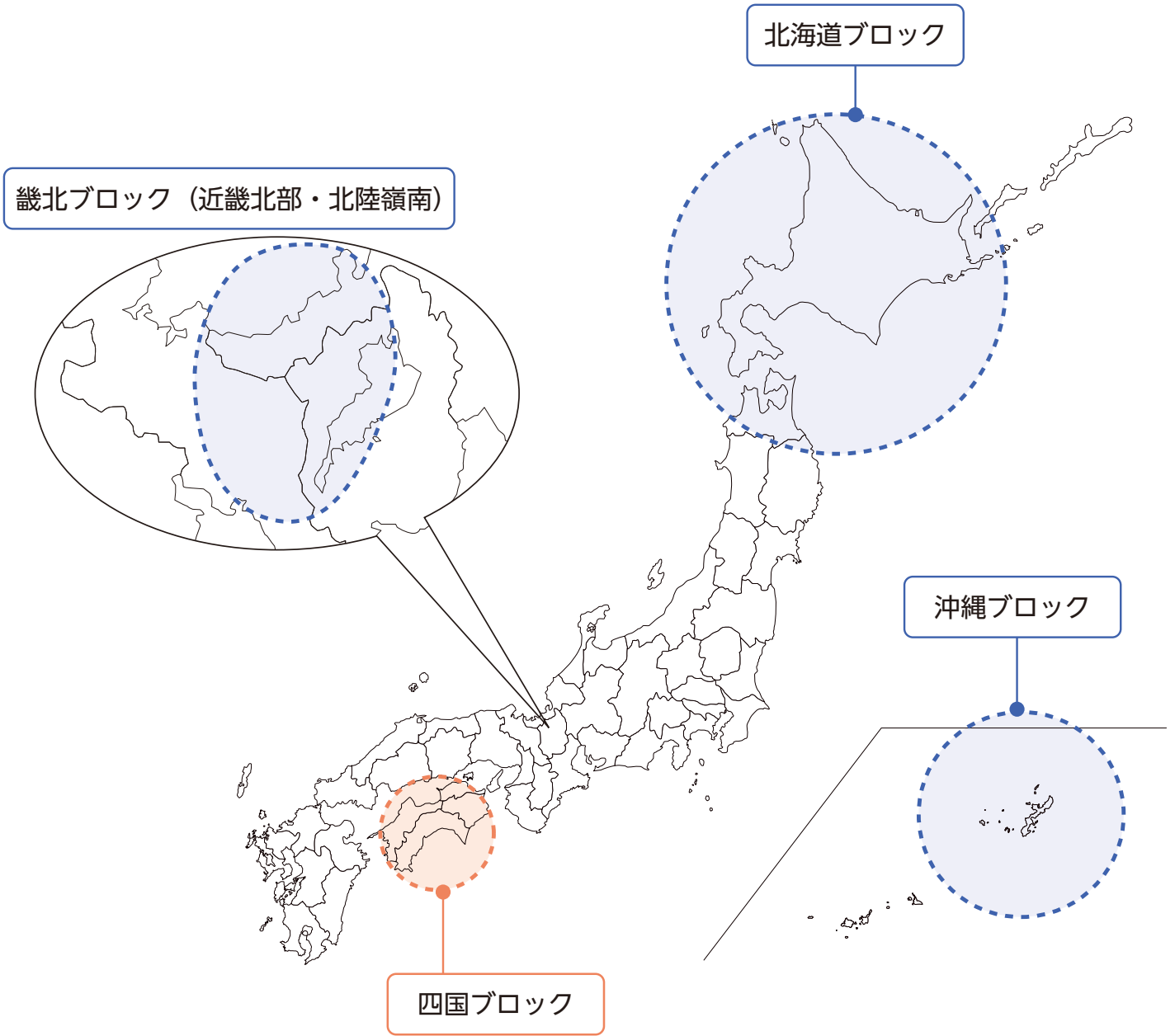
副会長

東京都市大学 名誉総長

中村 英夫

国土造りプロジェクト構想

(地方開発プロジェクト計画)



目次

Contents

1. 提言の概要	1
2. 提言プロジェクト	
① 四国単線新幹線と地域発展	21
② 松山空港周辺交通拠点整備	27
③ 観光振興のための狭隘道路走行支援システム導入	35
④ お遍路による観光活性化と地域づくり	41
⑤ 四国スポーツアイランド	51
⑥ 「多様な働き方」の受け入れを通じた地域活性化	57
⑦ 次世代養殖拠点	63
ワーキンググループメンバー	73

提言プロジェクト

1

Japan Project-Industry Council

提言の概要

SDGs時代の新たな地方活性化に向けて

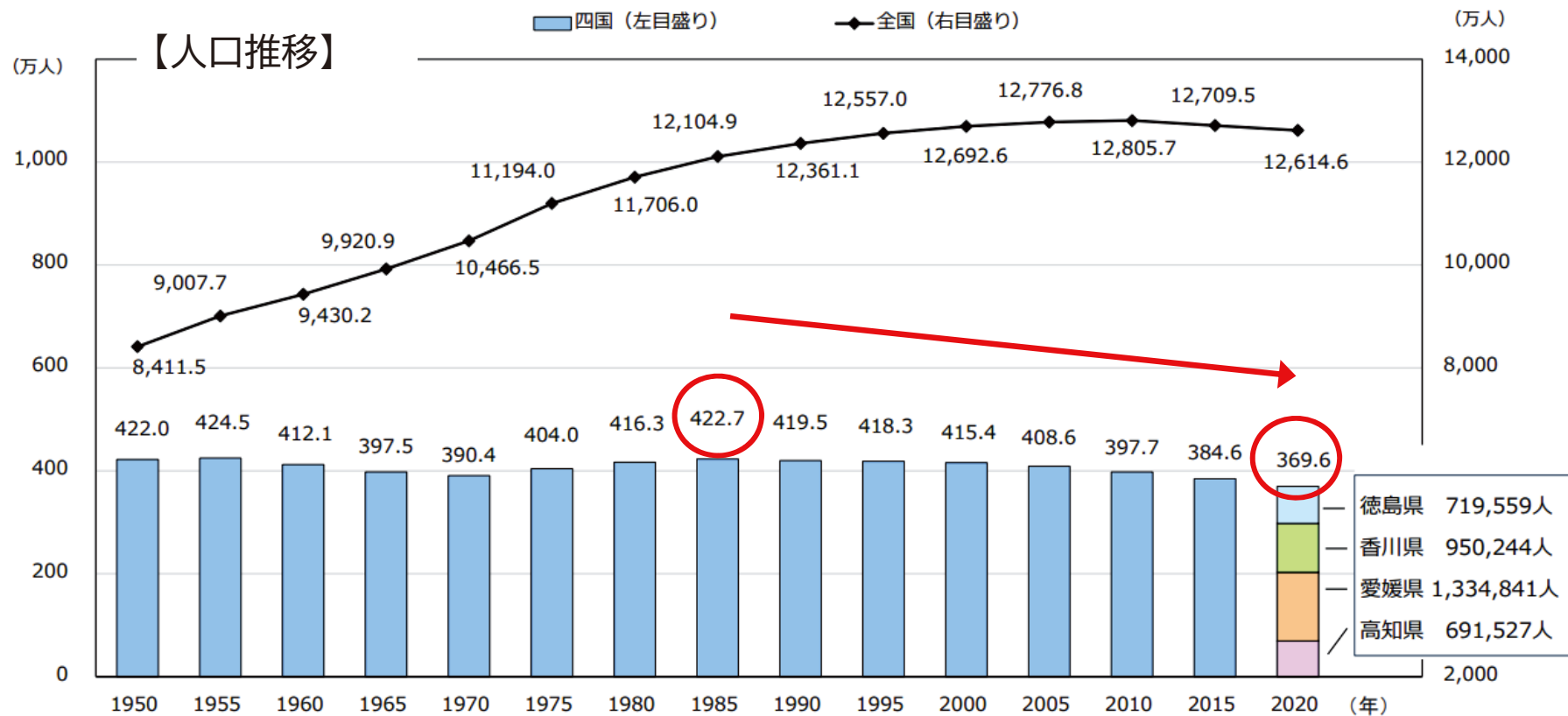
～特色ある自然・文化・産業で魅力を世界へ～

JAPIC 国土・未来プロジェクト研究会
四国ブロック総合開発ワーキンググループ

I. 四国の現状

(1)人口

- 370万人(2020年度) ※全国比2.9%
(徳島:72万人、香川:95万人、愛媛:134万人、高知:69万人)
- 1985年(423万人 全国比3.5%) をピークに減少(▼17%)

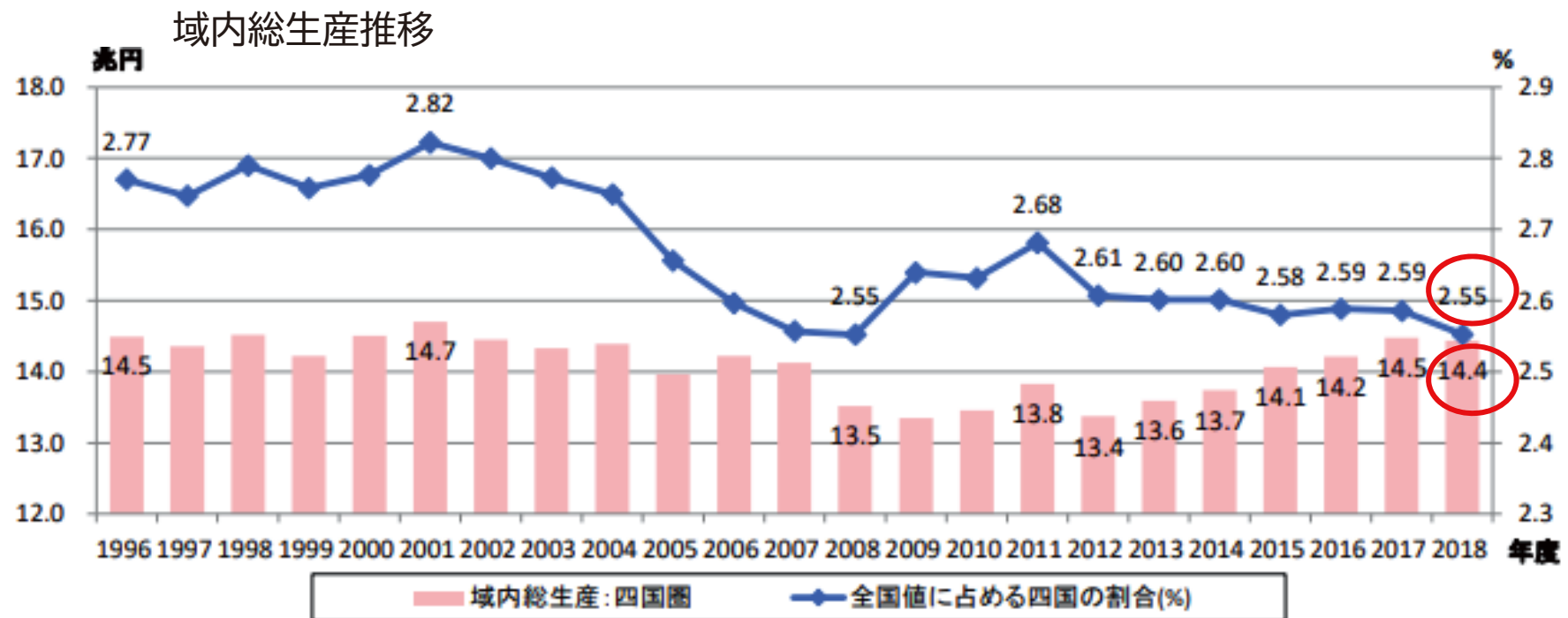


(出典)四国経済連合会「データから見る四国」

I. 四国の現状

(2) 経済規模

- ・四国圏の域内総生産は、概ね14兆円前後。
- ・全国シェアは、2001年度の2.8%をピークに低下し、足下は2.6%前後。



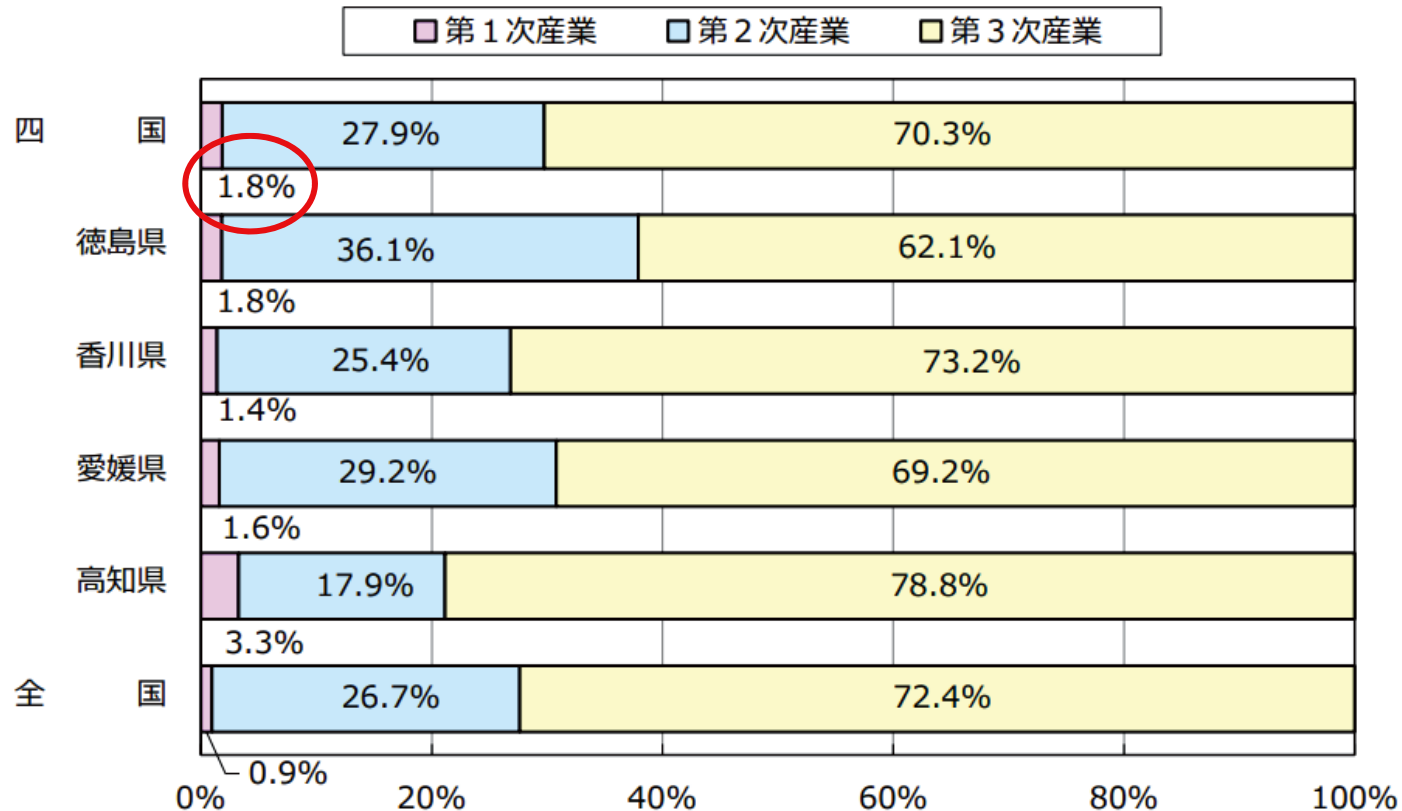
(出典)国交省「四国圏広域地方計画協議会」資料より

I. 四国の現状

(3) 産業構成

- ・一次産業の比率(1.8%)が、全国の2倍。特に、高知県は比率が高い。

産業構成



(出典)四国経済連合会「データから見る四国」

II. 四国の課題

(1) 人口減少と高齢化の進展

- 全国を大幅に上回る規模で、人口減少と高齢化がともに進展

【2050年】

人口:260万人

対2020 ▼110万人 (▼30%)

※全国▼17%

高齢化率: 43%

※全国38%

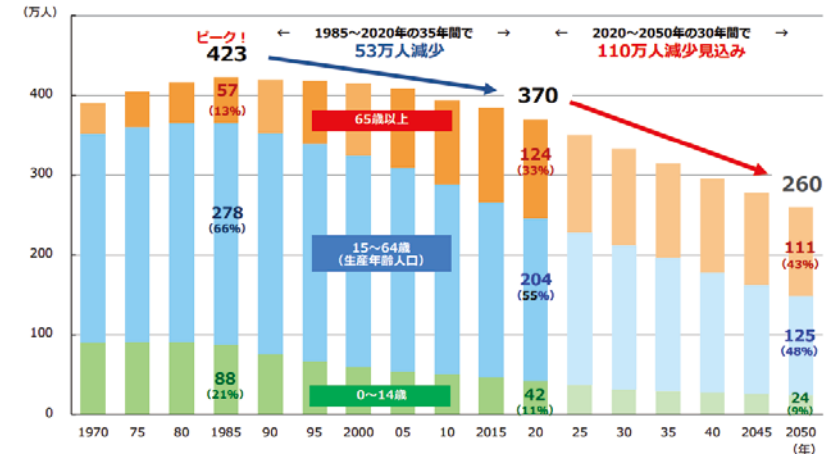
(国立社会保障・人口問題研究所 2023.12公表)

- 四国にある95市町村のうち、6割(57自治体)が消滅可能性自治体

(人口戦略会議 2024.4公表)

香川	4自治体	(全体の24%)
徳島	16	// (// 67%)
愛媛	12	// (// 60%)
高知	25	// (// 74%)

年齢階層別人口の見通し



(出典)四国経済連合会「データから見る四国」

四国内の自治体の持続可能性分析結果

	自治体数	自立可能性自治体	ブラックホール型自治体	消滅可能性自治体	その他
香川	17	—	—	4	13
徳島	24	—	—	16	8
愛媛	20	—	—	12	8
高知	34	—	—	25	9
全国	1729	65 (4%)	25 (14%)	744 (43%)	895 (52%)

「人口戦略会議」公表データよりJAPIC作成

II. 四国の課題

(2)遅れた交通インフラ整備

①鉄道

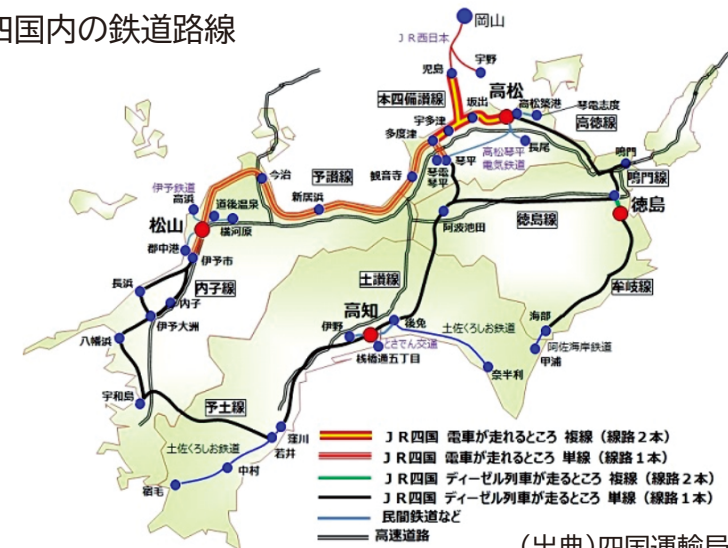
- ・複線化率： 5.9% (全国32.5%)
- ・電化率： 27.5% (全国55.7%)
- ※2017年度末時点 JR路線

- ・新幹線が整備されていないのは、全国四島のうち四国のみ。

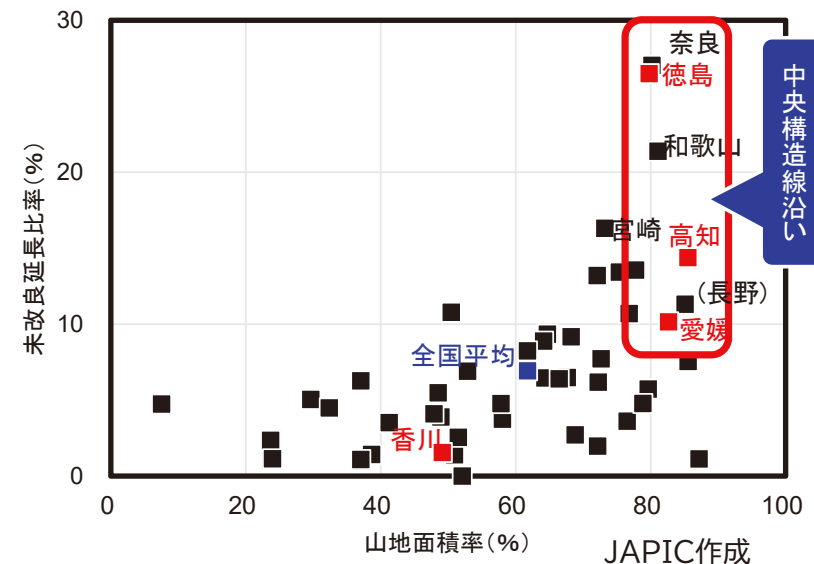
②道路

- ・高規格幹線道路整備率：約84% (全国 87%) ※2022年度末
- 特に、愛媛県、高知県の整備率が低位 (愛媛:83%、高知:72%)
- ※全国高速道路建設協議会調べ
- ・一般国道も山がちであることを背景に未改良比率が高い

四国内の鉄道路線



各都道府県の山地面積率と国道の未改良延長比率



II. 四国の課題

(3) 観光面での課題

① 少ない海外からの訪問者

- ・足下は増加傾向も、外国人宿泊者数は、全国比で1.1%に留まる。

② 一体的なプロモーションの不足

- ・周遊型観光の取り組みが不足
- ・行政面、産業面でも四国四県の連携が不十分
(海外観光客は「〇〇県」に関心なし)

全国及び四国の延べ宿泊者数(日本人、外国人)

	日本人延べ宿泊者数			外国人延べ宿泊者数				総宿泊者数に対する 外国人比率
	2012年 (a)	2019年 (b)	伸び率 (b-a)/a	2012年 (c)	2019年 (d)	倍率 (d/c)	2019年 全国比	2019年 d/(b+d)
	(千人泊)							
北海道	26,580	28,178	6.0%	2,012	8,805	4.4倍	7.6%	23.8%
東北	40,437	41,848	3.5%	276	1,852	6.7倍	1.6%	4.2%
関東	107,997	130,575	20.9%	11,752	40,537	3.4倍	35.0%	23.7%
北陸信越	38,687	38,591	▲0.2%	670	3,401	5.1倍	2.9%	8.1%
中部	49,594	54,541	10.0%	1,820	8,274	4.5倍	7.2%	13.2%
近畿	56,614	72,725	28.5%	6,055	32,936	5.4倍	28.5%	31.2%
中国	22,085	25,381	14.9%	586	2,202	3.8倍	1.9%	8.0%
四国	12,072	13,300	10.2%	184	1,217	6.6倍	1.1%	8.4%
九州	44,318	50,011	12.8%	2,179	8,682	4.0倍	7.5%	14.8%
沖縄	14,798	25,115	69.7%	781	7,751	9.9倍	6.7%	23.6%
全国	413,181	480,265	16.2%	26,314	115,656	4.4倍	—	19.4%

(出典)四国経済連合会「データから見る四国」

II. 四国の課題

③低い知名度

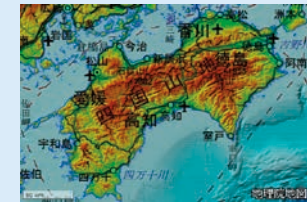
- ・「四国という島」(面積:1.88万km²)が世界に知られていない
- ・「四国と言えば〇〇」というキラーコンテンツが不足

名称	面積 (km ²)	人口 (人)	魅力
イギリス マン島	572	9万	バイクレースファンの聖地。 国際ロードレース「ツーリストトロフィー」の開催地として有名。
韓国 チェジュ島	1,845	66万	火山の地形と緑あふれる風景が特徴的。 温暖な気候にも恵まれる。
インドネシア バリ島	5,633	430万	神秘的な寺院、美しい海岸で有名。
四国	18,802	370万	

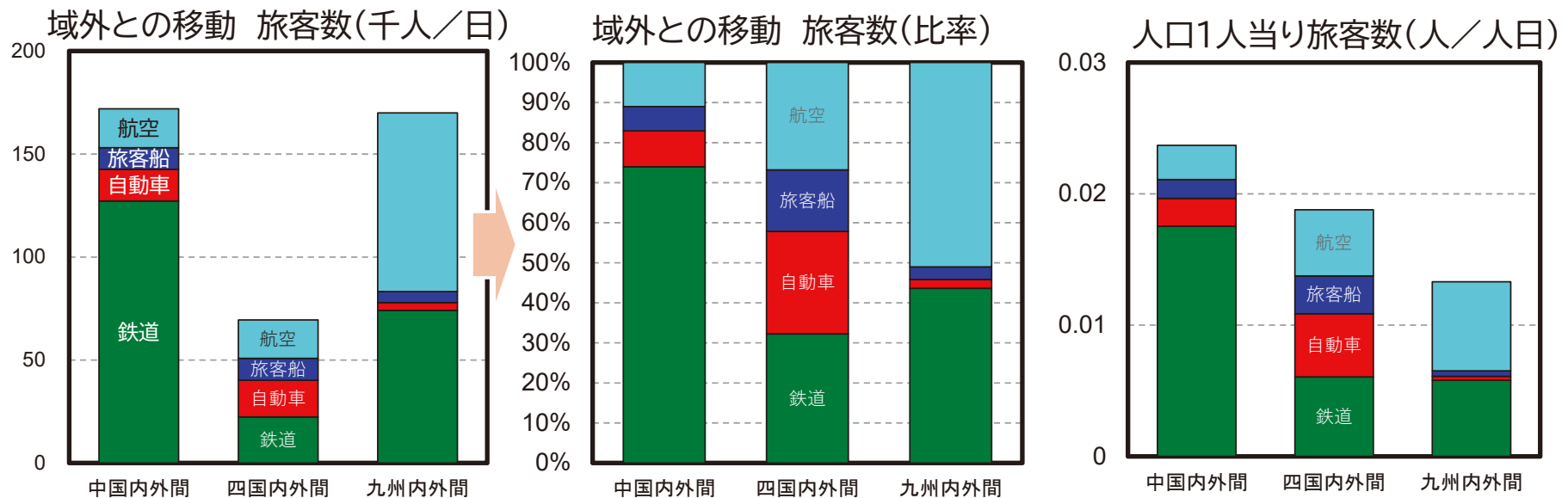
Ⅲ. 四国の特徴と発展の手段

(1) 新幹線整備の必要性

- ・中央構造線沿いに急峻な四国山地がそびえ、域内の交通（鉄道、道路）整備を阻害。
- ・域外との移動（四国内外間の移動）は、他地区に比して自動車の利用が多く、鉄道の利用が少ない。
- ・特に、東京・大阪から同程度の距離でありながら、中国地区との違いが顕著。



→地域を縦貫する新幹線の有無が一つの要因。新幹線整備による鉄道輸送拡大の余地は大きい。

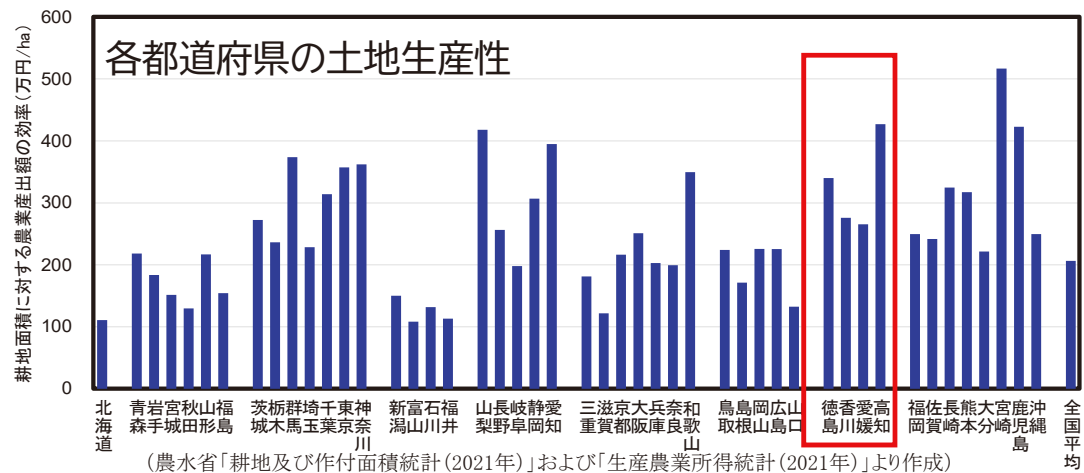
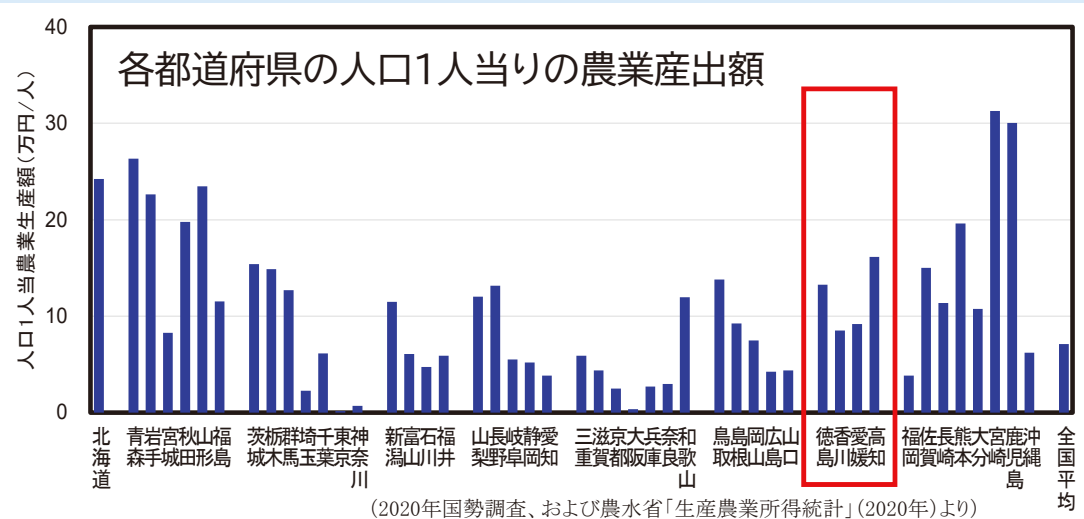


Ⅲ. 四国の特徴と発展の手段

(2)ポテンシャルある 一次産業

①農業

- 農業生産額が大きいとは言えないが、人口1人当たり農業産出額は全国比では高い地区。
- 山間部が多く耕地面積は少ないが、土地生産性は全国平均よりも高い。



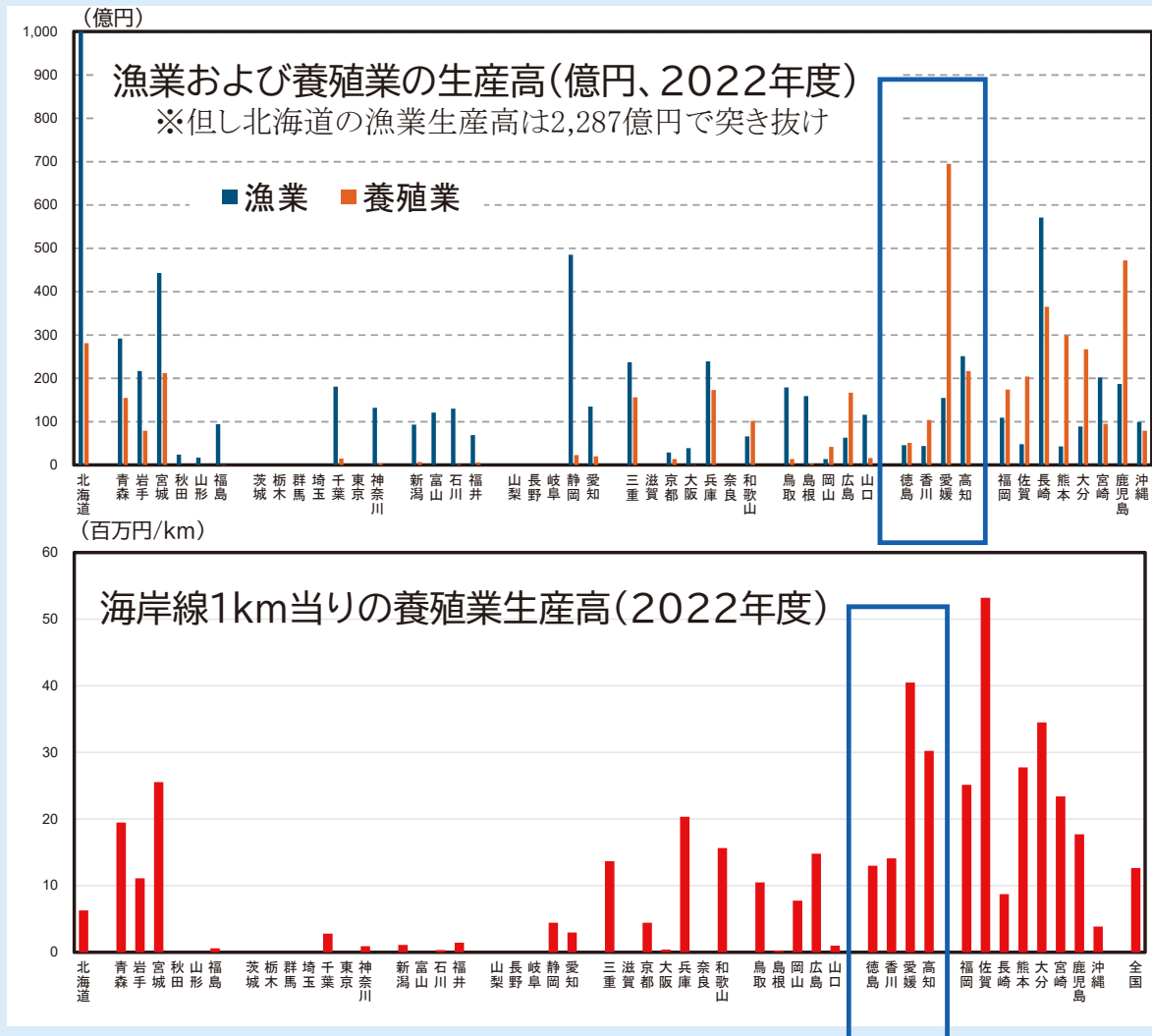
→特徴ある付加価値の高い農産物の需要・生産を高め、「食」を観光とも結びつけることで、四国全体の産業活性化に結び付ける。

Ⅲ. 四国の特徴と発展の手段

(2)ポテンシャルある一次産業

②水産業

- ・四方を海に囲まれており、多彩な海岸線を有する。
- ・愛媛県は養殖業の生産高が全国一位。
- ・海岸線1km当り養殖業の生産高でも、愛媛県は佐賀県に次いで全国2位。



→この強みを基盤整備によって更に伸ばすことが望ましい。

Ⅲ. 四国の特徴と発展の手段

(3) 発展余地のある観光業

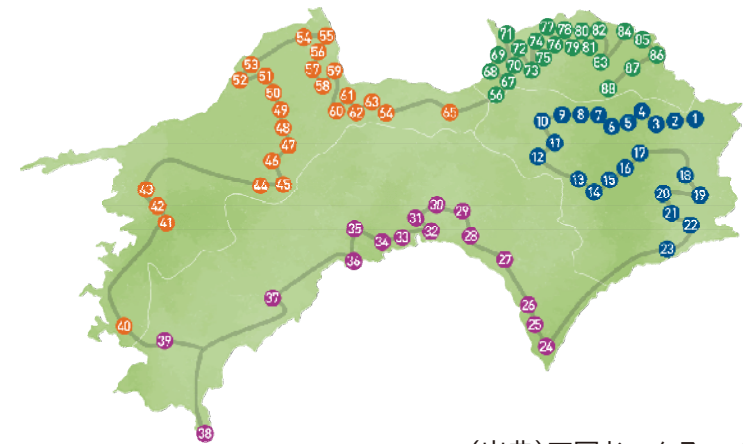
① 文化・歴史遺産

- ・四国遍路は長い歴史を有し、古来多くの来訪者を招き入れる。昨今は海外からの訪問者も増加。
- ・世界の巡礼路は、世界遺産への登録によって観光客を増やしている。
ex. サンティアゴ・デ・コンポステーラ(スペイン)
熊野古道

② 豊かな自然

- ・瀬戸内海と太平洋に面し、クルーズ等海洋レジャーの適地。
- ・県庁所在地からも比較的に近い場所に、自然豊かな山や溪谷が存在。パラグライダーやラフティング等、各地で特徴あるスポーツも盛ん。

四国全域に広がるお遍路札所



(出典)四国おへんろnet

溪流でのラフティング



Ⅲ. 四国の特徴と発展の手段

(3) 発展余地のある観光業

③ 多様な文化

- ・四国4県それぞれに特徴ある文化。それぞれの土地・産業に根差した食文化も多様。
- ・ポテンシャルある一次産業を背景に、「食」を含めた体験型観光を振興。

愛媛県/宇和島名産の鯛茶漬



→観光産業の裾野は広く、観光が地域振興に及ぼす影響は大きい。

- ・お遍路の世界遺産登録を契機とした、四国一体となった観光振興の取り組みが重要。
- ・併せて、その基盤となる、四国内の高速移動・周遊性をサポートするインフラ整備が必要。
- ・2019年にはニューヨーク・タイムズが選ぶ「行くべき観光地」の第7位に選出(日本唯一)され、インバウンド需要拡大のチャンス。

Ⅲ. 四国の特徴と発展の手段(見取り図)

- これまで述べた「強み・特徴を伸ばす」こと、及び「皆無からの脱却」の視点から総合開発を検討。
- 併せて、それを支えるインフラを提言。

【提言の見取り図】

支える主なインフラ

	生産	人流・集客	
強み・特徴を伸ばす	次世代養殖拠点 物流インフラ	お遍路 狭隘道路走行支援システム	
皆無から脱却	多様な働き方(知的生産拠点)	スポーツアイランド	瀬戸内クルーズ拠点 松山の港湾・空港

IV. 提言プロジェクト集

- ①四国単線新幹線と地域発展
- ②松山空港周辺交通拠点整備
- ③観光振興のための狭隘道路走行支援システム導入
- ④お遍路による観光活性化と地域づくり
- ⑤四国スポーツアイランド
- ⑥「多様な働き方」の受け入れを通じた地域活性化
- ⑦次世代養殖拠点

提言プロジェクト


2

Japan Project-Industry Council

提言プロジェクト ①

四国単線新幹線と地域発展

地域発展の現状と課題

- 近代化の遅れた鉄道網
 - 在来線は**単線**中心(複線化率=5%)
 - **非電化**(電化率=27%)
 - 四国内移動に時間がかかる(主な県都間2時間以上)
 - 災害に対して**脆弱**
 - 観光産業が**低迷**(お遍路・インバウンド・宿泊者数)
 - 自然豊かな観光資源が活かされていない
- 
- 観光を活かした地域発展を**目指す**
 - チャンスは訪れている(※世界的な観光誌が**四国に注目**)


四国新幹線の早期整備

※世界的な観光誌(ロンリープラネット)

「四国単線新幹線」の提言

- **フル規格単線方式の採用**
(複線→単線・・・工事費2/3、B/C:1.03→1.56)
- 整備路線への早期格上げ
ボンド等による財源の確保の検討
- **短絡トンネルによる一部先行整備**

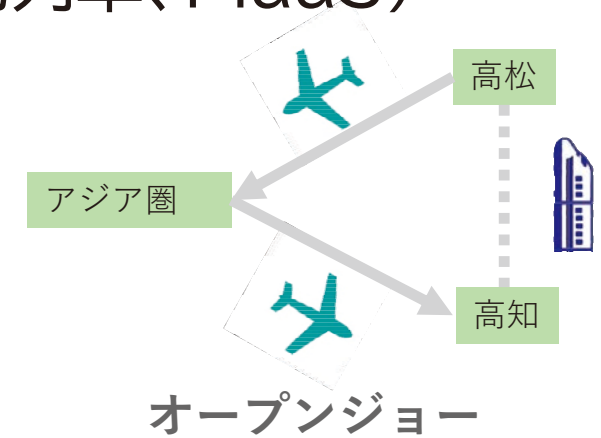


↔：先行整備短絡トンネル

- ・ 当面は在来線の高速化
- ・ 新幹線ルートとして利用

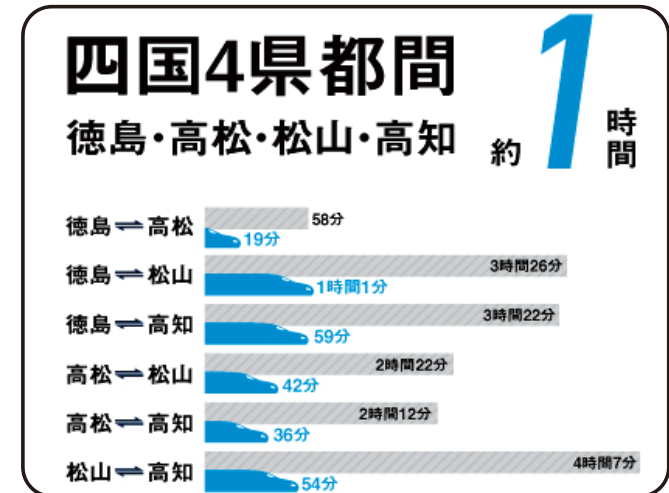
プロジェクトの推進方策

- 四国新幹線の**早期整備**
 - **整備計画**への格上げ
 - **短絡線トンネル**整備の先行着手
 - **資金調達**(民間資金の活用)
- 新幹線導入に伴う公共交通の**効率化**
 - 在来線の見直し(パターンダイヤ、観光列車、MaaS)
- 四国版**運輸連合**の導入
 - 共通運賃、共通チケット
 - 保守・整備の協力、規格統一など
- 観光促進による**需要創出**
 - **お遍路、四国スポーツアイランド**構想との連携
 - 新幹線・航空路線との連携(**オープンジョー**)

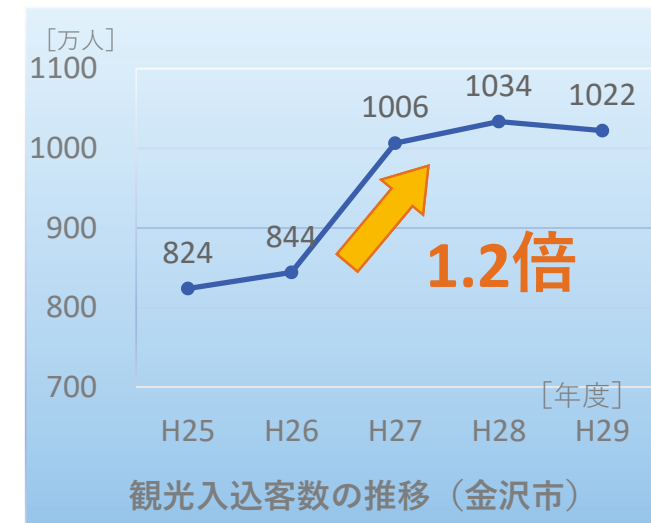


プロジェクトの効果

- **時間短縮**
 - 四国4県都間⇒約1時間
 - 新大阪まで⇒約1.5時間
- **観光・経済の活性化促進**
 - 金沢市の観光入込客数約1.2倍
- **まちづくりの発展**
 - 金沢駅、富山駅の事例
- **レジリエンス(災害耐力)向上**
 - 新幹線構造物は高規格
 - 災害時都市間の新たな交通モード
- **新幹線と飛行機の相乗効果**
 - 効率的な観光回遊の向上



出典: 四国新幹線整備促進期成会



出典: 金沢市観光統計を基に作成

提言プロジェクト ②

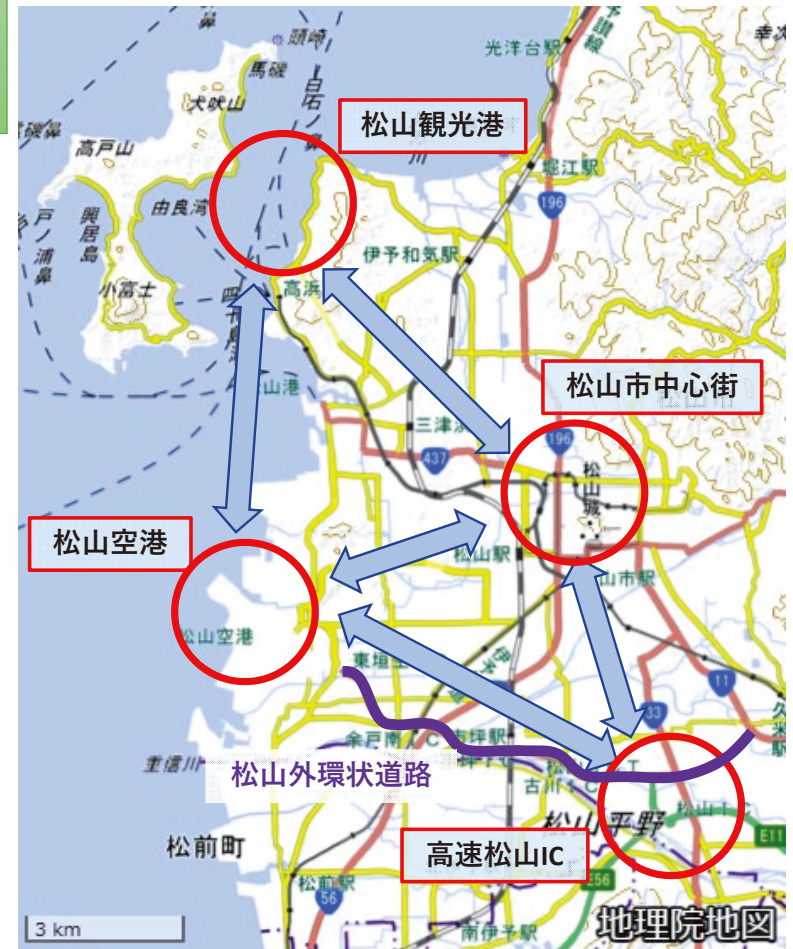
松山空港周辺交通拠点整備

松山空港周辺交通の現状と課題

航空交通、陸上交通、海上交通が一体となった交通結節点が日本にはほとんどない

- 松山では空港・港・高速道路ICが地域内に分散
⇒ 交通モード間移行の利便性向上が必要
- 空港・港・ICと松山中心部間の長い移動時間
⇒ 道路整備による移動時間の短縮が必要
- 瀬戸内海では空港に隣接・連絡する港が希少
瀬戸内を航行する小型船舶のほとんどは「平水区域」航行区分許可で運行。瀬戸内中央部の平水区域に隣接する臨海空港は松山空港と岩国空港のみ。
⇒ 瀬戸内の観光拠点としての優位性が生かされていない
- 県内の大規模マリーナは新居浜のみ
⇒ 海外富裕層のスーパーヨット需要にも対応できる基地の整備が必要

松山市の観光交通拠点と市中心部の位置関係



出典：国土地理院

【松山空港周辺交通拠点整備】

松山空港周辺の港湾拠点整備

候補箇所
(赤丸/5ヶ所)



出典:国土地理院

【松山空港周辺交通拠点整備】

松山空港周辺の港湾拠点整備

	土地利用 状況	航行 区域	空港 アクセス	伊予鉄 アクセス	高速道路 アクセス	拡張可能性 (土地の広さ)	景観	入船制限 (高さ)	総合 評価
①松山観光港	旅客船	平水 区域	○	◎	△ 外環状道路・ ICにより○	○	◎	大型船 入港可 (要浚渫)	◎
②三津心頭	多目的港	平水 区域	○	○	△	△	△	大型船 入港可	△
③大可賀 釣り公園	釣り公園 コスモ石油	平水 区域	○	△	△	△	△	不可	△
④北吉田	帝人 (ソーラー)	平水 区域	◎	△	○	○ 但しソーラーエリア	×	(~TP49m)	○
⑤今出	宅地 帝人の南	沿岸 区域	○	△	○	○	×	(~TP49m)	×

※TP:東京湾平均海面

プロジェクトの提言と推進方策

- 基本的には松山観光港の機能を強化し、瀬戸内クルーズ等の観光旅客の拠点を形成
- 北吉田は空港との近接性の点で優れているが、景観の観点からは既存施設(工場や石材物揚げ場等)の見栄えが難点
- 外環状道路の早期延伸と、適切なICの配置
- 伊予鉄道の高浜駅から松山観光港へのアクセスの強化
- 松山観光港拡張についての検討
- 海外富裕層を対象にしたスーパーヨット対応のマリーナやFly & Cruiseに対応できる客船棧橋を整備
- 松山空港の国際線乗り入れ拡大のための再整備
- 将来の四国新幹線開業を見据えたJR松山駅から松山空港への鉄道アクセスを検討
- 土地の所有者や既存の利用者、各種関係者等にプロジェクトへの参画と運営への参加を呼び掛け、民間の資金とノウハウを活用

Fly&Cruiseのイメージ



いま日本に必要なのはクルーズ船に短時間で乗り換えられる空港

プロジェクトの効果

- 瀬戸内の平水区域で唯一、航空、舟運ならびに陸上交通（自動車専用道と鉄道）が隣接する拠点が誕生
- 四国&瀬戸内観光の新しい拠点を創生
- 京都や富士山に飽きた新しい海外旅行客の発掘
- 瀬戸内小型船クルーズの母港を誘致することで大きな経済波及効果を発揮
- 瀬戸内の島々を船で楽しむ新しい観光スタイルの創出
- 四国&瀬戸内地域の新規雇用を創生
- 現在、日本国内に不在のスーパーヨット市場を開拓
スーパーヨット利用者には空港の利便性が不可欠
- 四国の物産や瀬戸内の魚介類の物流&販売拠点を形成

松山空港に着陸する航空機と夕陽



スーパーヨットの例



提言プロジェクト ③

観光振興のための 狭隘道路走行支援システム導入

中山間地の観光地へのアクセス道路の課題

1) 四国は交通系の投資が遅れた地域

- ・鉄道や道路の交通系の投資が遅れた地域で道路の整備の遅れが目立つ
- ・中山間地が多く、それらの地域の道路は狭隘で経済活動上の支障になっている
- ・道路改良は中山間地の重要な経済活性化策の一つ

2) 観光地周辺は狭隘な路線が多く車での来訪の妨げに

- ・四国の観光地やお遍路の札所に至る末端の道路は幅員が狭くすれ違ふことが困難な箇所が多い
- ・公共交通が貧弱な四国では、近年、高齢者の車による観光や遍路旅等が増加している
- ・狭隘な個所での運転は困難で観光地近辺の渋滞も引き起こし観光振興の上で大きな問題

3) 簡単ではない道路改良

- ・急峻な地形が多く2車線化の施工は困難で工費もかさむ
- ・改良完了までハードでなく低コストのソフト対策にて改善

4) ICT技術で運転を支援したい

- ・最新のセンサーや路車間通信を使う技術を活用
- ・タイムリーな維持管理を可能とする体制整備
- ・地元大学、企業を巻き込み新規産業として根付かせる

狭隘な中山間地の道路
(すれ違ふことが困難、300mバック)



【観光振興のための狭隘道路走行支援システム導入】

走行支援システムの観光地への導入提案

1) 既存の走行支援システムを改良し観光支援のために導入

- ・高知工科大開発の既存の走行支援システム(下図参照)を再評価する
- ・狭隘区間を挟んで2か所の待避所を設け、センサーで車両の出入を監視し車両の運行制御
- ・開発では国交省が支援し、地元では認知度もあり高知県の24か所にすでに導入済

2) 上記システムの改良

- ・安価で耐久性(雷害対策も含む)に優れる機材により改良
- ・新たなセンサー導入や最新の通信技術の導入
- ・導入効果が高い観光交通に適用
- ・仕組みを理解せず制御区間に誤って車両が侵入した場合の警告処理機能の整備

3) 改良・導入に考慮すべきこと

- ・メンテナンスの手順や体制整備
- ・地元での開発を通じ人材や企業育成
- ・県外からの訪問者への周知方法

高知工科大開発のシステム概要

中山間道路走行支援システム(仮称)とは

【参考】

○中山間地域の道路は、すれ違い困難な区間や見通しが悪く事故の危険性が高い区間が多数存在しており、すれ違いできず円滑かつ安全な走行に支障をきたす等の状況が発生

○また、地形的特徴から道路を拡幅する等の改良を実施するためには多くの費用や期間が必要。

⇒ 対向車の存在を検知し表示するシステムの設置事例あり



出典:(一社)道路電気技術協会

システム導入の推進方策

1)観光振興の目玉となる車での「お遍路」旅を支援

- ・「お遍路」は四国観光の最大の売りの一つ
- ・車、バイクや自転車の安全で快適な走行を支援できることは観光振興に多大な貢献
- ・特に高齢者の車での「お遍路」観光を支援することに有効

2)観光振興のためのシステム導入方針策定

- ・観光地に至る主要路線のアクセス性を検証
- ・整備優先順位を検討し基本方針を策定
- ・地域特性に応じシステム導入の適所を選定する

3)ETC2.0やスマホ対応

- ・通信方式やスマホアプリなどによる最新の運転サポートを研究し制御システムに取り入れる
- ・維持管理の容易性から路面への埋め込み式磁気センサー導入も検討
- ・NEXCO等での制御の最新事例を収集し適用可能性を研究する

4)地元の大学、建設コンサルタントで協働開発

- ・保守体制の脆弱性や新規産業育成のため開発では地元企業参加を促す
- ・特に地元の電機メーカーやコンサルタントの参画が必要
- ・国土交通省に協力、支援を要請したい

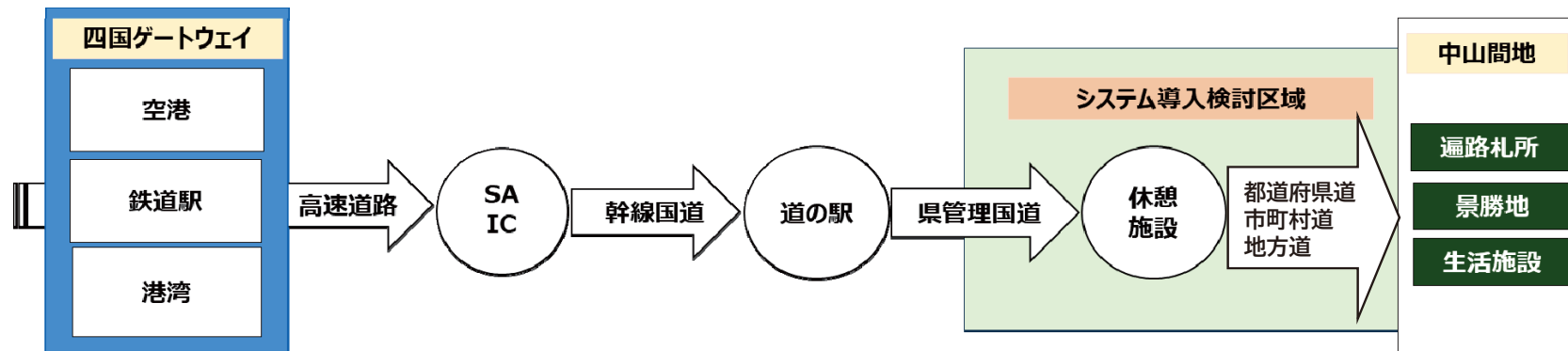
プロジェクトによる効果

1) 安い改良費用で安全快適な走行支援が可能に

- ・大規模な工事も伴わないため安価に安全に改良ができる
- ・信号等の制御により狭隘部でストレスなくすれ違いができ安全で快適な走行が可能に

2) 車や自転車での安全で快適なお遍路旅に貢献

- ・信号等の制御により狭隘部でのすれ違いをストレスなく安全で快適に走行することが可能に
- ・山間部での自動車による走行ストレスが軽減され遍路旅の来訪者増に貢献



3) 四国の中山間地が国のモデルに

- ・高齢化が進む日本の中山間地の安全な道路利用のモデルとなる
- ・将来はオンデマンド型の自動運転にも対応し、グリーンツーリズム等のSDGsに貢献

4) 日本各地の中山間地振興の一手法として提言

- ・「国土・未来プロジェクト研究会」において各地域の中山間地の振興は重要テーマ
- ・中山間地の観光振興や経済活動の活性化に寄与できる安全性向上方策として普及させる

提言プロジェクト ④

お遍路による観光活性化と地域づくり

四国お遍路の現状と課題

1)ハードルが高い世界遺産登録

- お遍路による観光活性化には世界遺産登録が最重要条件
- 文化庁において世界遺産登録の暫定一覧表にリストアップされることが重要
- 登録に向けてのハードルが高いため関連の各団体の多面的な支援が必要

2)減少するお遍路来訪者数

- 来訪者数13.5万人(2002年)が8万人(2018年)近くまで減少
 - ・21番札所太龍寺にアクセスするロープウェイ(写真)の乗車人数から推計された数値
 - ・サンティアゴ・デ・コンポステーラ:世界遺産登録当時(1993年)は5万人/年程度、以降着実に増加し2022年43万人に
- 減少理由
 - ・瀬戸大橋開通で増加した団体バスやマイカー遍路が高齢化で減少
 - ・特にマイカーや公共交通の基盤が未整備で札所へのアクセスが不便
 - ・国内外に遍路旅の良さが知られていないことや国民の宗教離れ

3)登録に向けて求められるお遍路来訪者増加策

- 来訪者増を促す**多様な交通モード**に対応
 - ・近年の交通モードの多様化に柔軟に対応できるインフラ整備
- 札所周辺の地域づくり
 - ・高齢化等により接待所などが減少し札所周辺の賑わいが低下
- 広報やSNS発信が十分でない
 - ・巡礼の魅力が国内外に知られていない

21番札所太龍寺にアクセスするロープウェイ



【お遍路による観光活性化と地域づくり】

「お遍路による観光活性化と地域づくり」の提言

提言1:世界遺産登録に向けた協力

- ・「四国遍路世界遺産登録推進協議会」の部会活動に協力

提言2:多様な交通モードに対応するインフラと案内アプリ整備

2-1 多種の移動モードに対応するインフラ(参考資料1)

1)徒歩、自転車、バイク、自動車、バスなどに対応

- ・道路改良(自転車道の整備、駐車場整備など)
- ・アクセス道路の狭隘部の安全性と快適性を確保する改良(例:狭隘道路走行支援システムの導入など)

2)交通結節点における拠点整備とサービス向上

- ・四国の入り口、幹線道路、札所周辺のアプローチの結節点
- ・道の駅、接待所、民間施設にお遍路用のサービス機能を追加

霊山寺門前のまち並み



霊山寺門前にある接待所



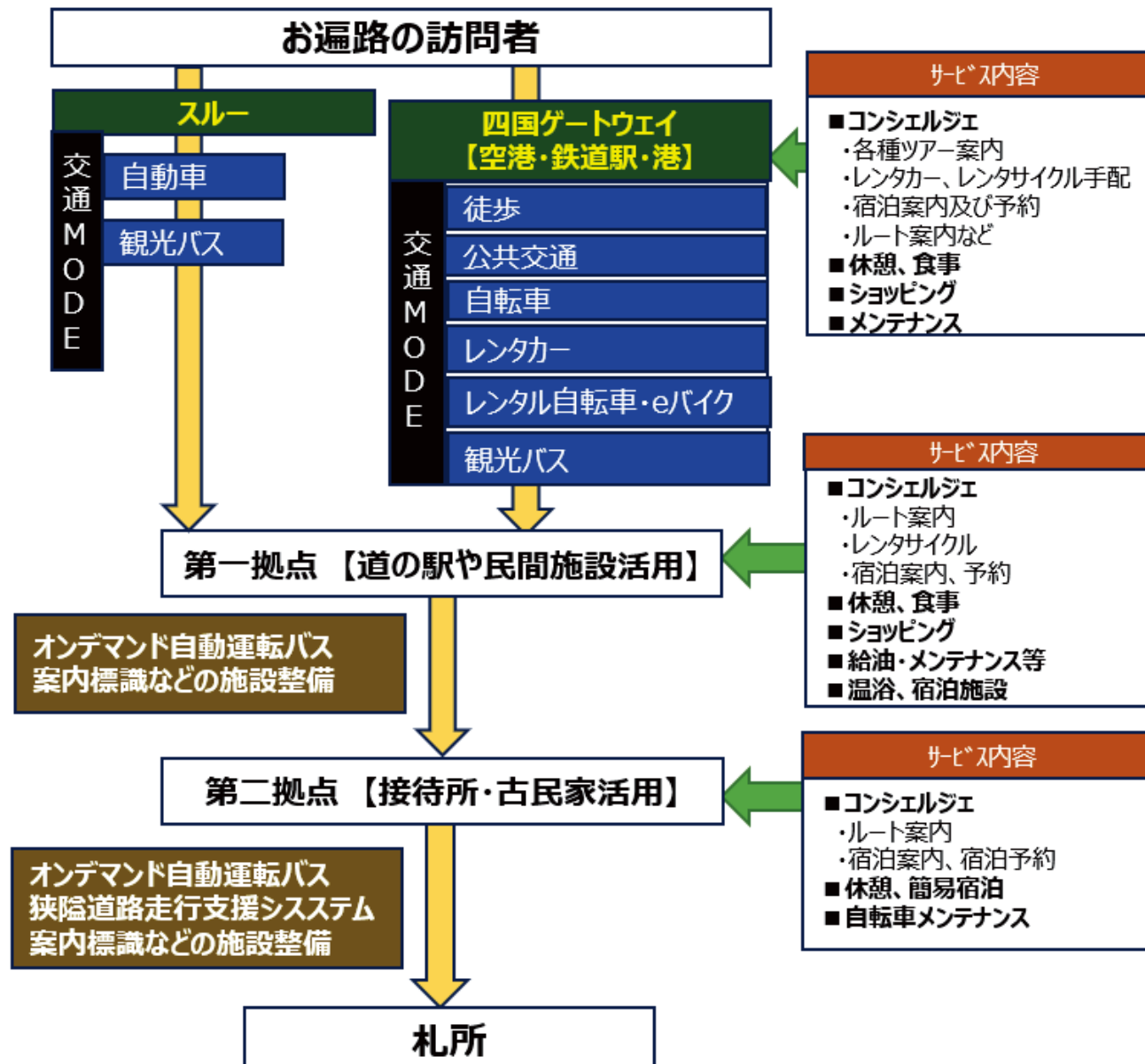
2-2 案内アプリ整備(参考資料2)

- ・安全快適な旅をスマホで支援
- ・世界遺産登録推進協議会とも協働し提供

提言3:案内所、案内施設の充実(参考資料1)

- ・多言語対応のコンシェルジェの充実
- ・宿泊、列車、レンタカーなどの予約サポート
- ・地元自治体主体の古民家等を活かした施設整備

参考資料1: 多様な交通モードに対応する拠点整備とサービス向上



参考資料2: 旅案内アプリの例

サイクリング旅案内スマホアプリ

POINT
自転車で走りながら周辺の自転車情報をキャッチすることができるアプリ

スマートフォンの位置情報を元に、周辺コースや施設の検索が可能なおアプリです。オフィシャルコースの検索や施設情報、オリジナル記事も現在位置から把握することができ、イベント※にも活用いただけます！

※スタンプラリーやフォトコンテストなどが可能ですので、是非ご相談ください

コース確認
走りながら確認しやすい！
地図上でルートを確認してナビゲーション

周辺検索
ご当地情報を見逃さない！
地図上で周辺の施設や関連記事を確認しよう

カスタマイズ
自分だけのコースを作れる！
見つけたお店は、お気に入りスポット登録しよう

走行履歴を記録可能
REC機能を搭載！
走行したルートや時間距離も記録できる

TABIRINアプリの使い方

【TABIRINアプリの紹介】
「地図どこ」機能を使って千葉県むつざわサイクリングレポート

【TABIRINアプリの紹介】
アプリを活用してサイクリングを楽しもう【関西編】

Available on the App Store | Get it on Google play

TABIRIN

iPhone, AndroidでこちらのQRコードより公式アプリがダウンロードできます。

地図どこ

TABIRINアプリからサイクリングマップを見ることができる機能です。(右図参照)
紙マップを広げたり量んだりすることなく、土地勘のない旅先でも周辺情報を見ることができます。
※公的機関のマップは掲載可能です

1 地図でマップの掲載位置がわかる

2 実物マップがアプリ上で見られる！

3 マップ上に現在地が表示できる！

4 通常マップにも切り替えができてより詳細な情報が見られる！

特徴：
 ・自分の位置を常にGPSで把握しルート案内だけでなく関連施設を同一のスマホ上でワンストップで簡単に検索可能
 ・遍路道ではGPS電波が受信困難となることが想定されるので、アプリでの機能強化や受信を補助する機能整備が必要

出典：TABIRIN

プロジェクトの推進方策

1)世界遺産登録に向けた協力

- ・四国遍路世界遺産登録推進協議会のまちづくり等に関連した主要部会への参加
- ・お遍路の魅力を伝える広報を強化、関連イベントへの協力、SNSを通じた発信

2)多様な移動モードに対応する拠点と案内アプリの整備

■多種の交通モードと拠点

- ・第一拠点(道の駅など)、第二拠点(接待所など)の分布の現状を分析(参考資料3)
- ・第一、第二拠点に偏在がある地域は安全で快適な旅のための施設整備の改良計画を策定

■第二拠点と札所を結ぶアクセス道路を中心に現状把握

- ・アクセス道路にある狭隘箇所を把握し、走行支援システム導入計画を地元自治体と協働して作成

■案内アプリの作成(参考資料2「TABIRIN」やサンティアゴ・デ・コンポステーラのアプリを参考に)

- ・協議会と協力し普及につなげる

3)案内施設配置の見直し

■第一拠点:道の駅や関連民間施設などの改良

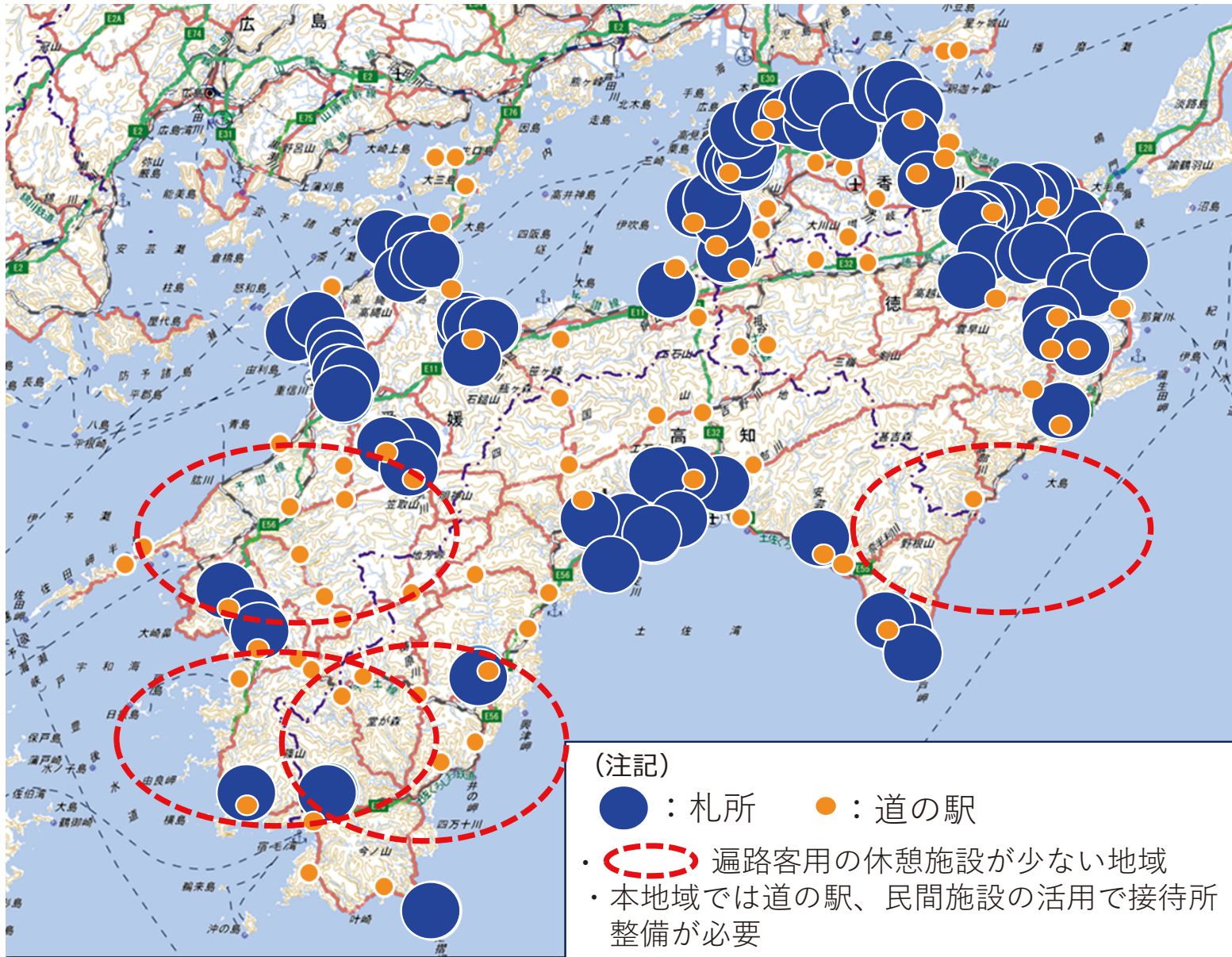
- ・遍路旅の支援を意識した再整備
- ・コンシェルジェサービス機能の充実

■第二拠点:接待所や関連民間施設などの改良

- ・地元主導で空き家の活用や古民家再生などで整備
- ・経験豊富な先達等を中心に整備



参考資料3：お遍路札所周辺の道の駅の分布図



出典：国土地理院地図をもとにJAPIC作成

プロジェクトの効果

1)世界での四国の認知度が向上

- ・四国の名を世界にアピールできるチャンスが拡大
- ・新幹線整備や高速道路などのプロジェクト推進の原動力に
- ・遍路歩きはサンティアゴ巡礼路と並んで人気があり欧米系のインバウンドが増加

2)遍路に沿った4県のすべての自治体の観光地が活性化

- ・巡礼に興味を持つ欧米系のインバウンドが増加、関連する観光業にも効果が波及
- ・観光地での消費額が多く札所のまちが活性化
- ・特に札所のある中山間地の活性化に貢献

3)案内インフラ施設の充実によるお遍路の魅力向上

- ・案内インフラ・支援アプリで安全快適な巡礼実現
- ・インバウンド、高齢者だけでなく若者にもアピール

4)PRによりさらに四国の魅力が向上

- ・旅の魅力を国内外にPRできる材料が増える
- ・4県の連携による広報はより効果が高い
- ・特に宗教離れしている年齢層をターゲットに

(例:聖地巡礼、パワースポットなどをアニメ化)



提言プロジェクト ⑤

四国スポーツアイランド

四国の現状と課題

1) 成長著しい世界のスポーツ医療産業

- ・世界のスポーツ医療(医薬品、デバイスなど)の市場規模は約1.2兆円(Mordor Intelligence社)
- ・市場は順調に成長(年平均成長率:2.7%)、最も成長が顕著なのはアジア太平洋地域
- ・医療技術も含め市場を抑えているのは米国と言われている

2) 日本のスポーツ医療は総合力で米国に後れをとる

- ・スポーツ医療では、医療、理学療法、トレーナーが三位一体となるシステムチックな総合力が重要
- ・日本は、個別要素では米国と同等レベルを保持するも総合力や大規模化で米国に後れをとる
- ・放置すれば今後の成長が期待できるアジアのスポーツ医療市場は米国などに占有される恐れあり

3) 四国には世界へ発信できるものが少ない

- ・国内外に島としての「四国」をアピールし知名度を上げることが地域の発展には重要
- ・四国お遍路の巡礼は欧米を中心に認知度が高いが限定的
- ・観光資源のポテンシャルは高いが、それらを誘発できる四国固有で世界へ発信できるものが必要

4) スポーツ医療に有利な四国を最先端の医療基地として世界へ発信したい

- ・新幹線で4県の医療をネットワーク化し総合・大規模化した新たな中枢都市を整備し世界へアピール
- ・温暖少雨の気候特性は、リハビリテーションを含むスポーツ先端医療基地の設置に有利である
- ・中枢都市は施設や知見を四国の高齢化対策として開放しスポーツ健康志向の未来型社会の実現を

「四国スポーツアイランド」の提言

1) 新幹線網の中央にスポーツ医療の世界最先端「スポーツ中枢都市」を整備

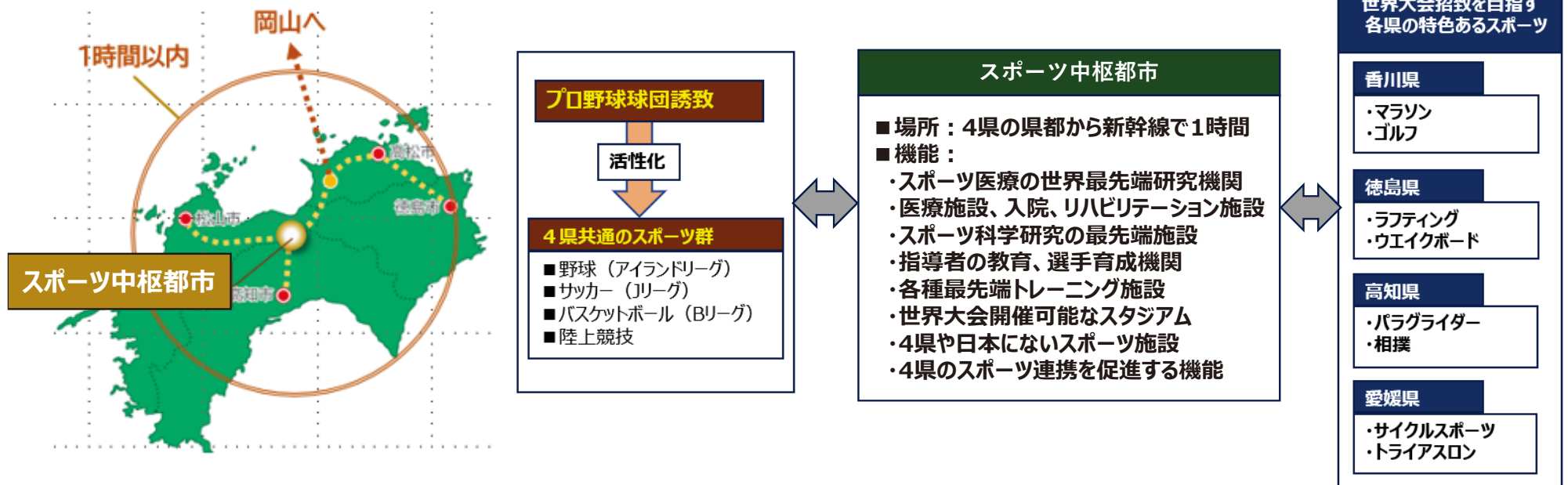
- ・日本が誇る医療をスポーツ分野で世界トップレベルに再構築し「スポーツ中枢都市」から世界へ発信
- ・世界に通用するスポーツ科学、医療、リハビリテーション施設や宿泊機能を持つ
- ・施設は地元生産の木材を使用しCN(カーボンニュートル)、SDGs対応のモデル都市とする

2) スポーツ中枢都市を中心とした四国全体のスポーツ・ツーリズム促進

- ・中枢都市を中心に各県の特色あるスポーツを連携させ四国全体としてスポーツ振興を促進
- ・新幹線ネットワークを活用し医療とスポーツ促進の両面で集中と分散型の活性化を行う
- ・各県で世界大会を誘致できる特色あるスポーツを振興しスポーツ・ツーリズムを活性化

中枢都市は各県都から新幹線1時間以内のアクセス

四国スポーツアイランド構想の概念



プロジェクトの推進方策

1) 機運醸成はプロ野球球団誘致から

- ・四国で最も関心の高い「野球」にて初期プロジェクトを立ち上げ
- ・プロ野球16球団構想を推進し四国を拠点とする球団誘致

2) 各県に分散するスポーツと連携

■ 4県各々の特色あるスポーツへの取り組み

ラフティング(徳島)、トライアスロン(愛媛)
パラグライダー(高知)、マラソン(香川)
その他多数

■ スポーツ中枢都市が持つ高度で多様な機能

- ・最先端の施設をもつスポーツ総合医療機関
- ・スポーツ科学の研究と教育
- ・世界レベルの選手育成

■ スポーツ中枢都市が持つ連携機能

- ・4県のスポーツ振興組織の牽引および連携
- ・四国4県の魅力を世界へ発信する窓口

プロ野球球団を誘致



3) 国際大会の誘致

- ・各県の特色あるスポーツの国際大会を四国全体で誘致
- ・スポーツ中枢都市を中心に各県の施設と連携しユニバーシティ大会などを開催
- ・国際的なスポーツ医療や科学に関する国際学会を誘致

プロジェクトの効果

■「スポーツ中枢都市(スポーツ・コンプレックス)」として世界へアピール

- ・世界各国のスポーツ医療や科学の研究機関との連携が可能に
- ・関連施設と融合する「スポーツ・コンプレックス」により観戦と観光での国内外の訪問者が増大
- ・「スポーツ健康志向のまちづくり」の発信基地として国内外から注目される

■スポーツ・ツーリズムの普及

- ・四国の観光の新しい目玉となる
- ・四国のスポーツの魅力をスポーツ中枢都市から世界へ発信することで来訪者が増加
- ・日本の新たな観光施策の一つとして先駆的な事例となる

■四国新幹線の利用促進

- ・各県の主要都市から1時間以内の移動で
スポーツ中枢都市でのイベントが観戦可能に
- ・スポーツ中枢都市と各県のスポーツ施設との連携で
スポーツを通じた4県の交流が活性化
- ・新幹線整備の効用がさらに高まる要因になる

■先端都市構築は不振の林産業を活性化

- ・主構造部材や付属物すべてを木材で構築
- ・SDGs対応を前面に出し林産業の特性をアピール
- ・地元産の木材を活用した未来都市で木材需要を喚起

スポーツ中枢都市のイメージ



提言プロジェクト ⑥

「多様な働き方」の受け入れを 通じた地域活性化

【「多様な働き方」の受け入れを通じた地域活性化】

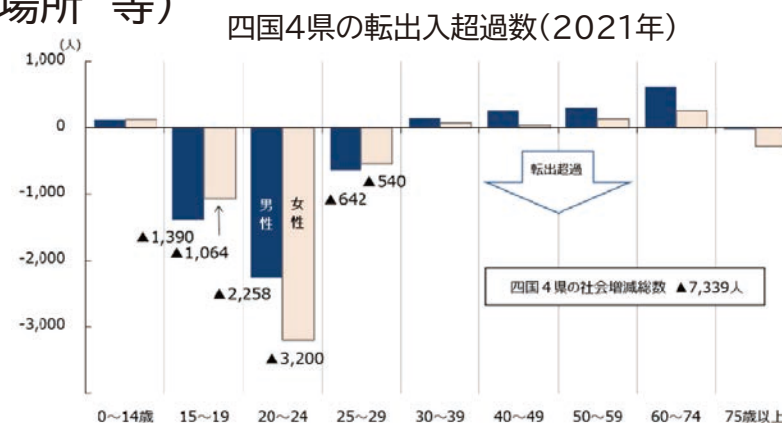
四国の現状と課題

■人口減少の進展

- ・2050年にかけて、全国を大幅に上回る規模で人口減少が進展
- ・若年層主体に域外への転出超過に歯止めがかからず、転入も極めて少ない状況。
→地域に人が集まるコアが必要(働く場所、学ぶ・研究する場所 等)

(2020) (2050)
四国4県計 370万人 → 260万人

▼110万人(▼30%) ※全国平均▼17%
(国立社会保障・人口問題研究所2023.12.22発表)



(出典)四国経済連合会

■徳島県ではサテライトオフィス開設数が全国2位。一部地域では関係人口が拡大。

- ・神山町:ケーブルTV敷設により通信環境が改善。
アートフェスを通じて交流人口拡大。
古民家等を活用したサテライトオフィスが増加。
- ・美波町:仕事と余暇(サーフィン)の両立をPR。新しい生活様式を志向する移住者が増加。

都道府県別サテライトオフィス開設数(2021年3月末時点)



出典:サテライトオフィス・ワーケーションが地域を変える(四国経済連合会、2021.5)

【「多様な働き方」の受け入れを通じた地域活性化】

提言：多様な働き方を支える環境・施設整備

■環境・施設整備

(1)通信インフラの充実

(2)多様なワークスペースの整備・提供

サテライトオフィス

空港隣接のワーケーション施設 等

※四国は4県各県庁所在地に空港が立地

・中心地までのアクセスは比較的容易(各地とも車で30分程度)

・運航本数も多く、羽田へは各地から毎日10往復以上のフライトあり

(3)教育施設の整備 (特徴のある教育)

ex. 徳島県神山町 「神山まるごと高専」

(4)交通インフラの整備

■地域産業と連携した就労支援

・農業、林業、漁業への参画

神山バレー・サテライトオフィス・コンプレックス
(徳島県神山町)



空港隣接型ワーケーション施設(南紀白浜)



【「多様な働き方」の受け入れを通じた地域活性化】

プロジェクトの推進方策

■自治体や関係機関とのタイアップ

- ・サテライトオフィス新設・改造費用に対する補助 等
- ・空港会社や、エアラインと連携した受け入れ拡大 等
- ・広報活動の積極的な展開

■地域に応じた、働き手の受け入れと施設整備

- ・働き手の受け入れ方は多様
 - 個人を受け入れ（個人、または個人とその家族 等）
 - 企業を受け入れ（研修・教育に活用する施設、サテライト型事務所 等）
- ・四国に特徴的な、受け入れメニューの設定
 - ex. お遍路体験とセット

■地域産業と連携した施策の展開

- ・農林水産業とセットでの「半農半X」的働き方の支援
- ・地元産の木材を活用した施設整備

■地域で核となる人材の育成・誘致

- ・人の転入が起こる地域には、必ずキーマンが存在

地元産木材を活用した集合住宅(神山町)



【「多様な働き方」の受け入れを通じた地域活性化】

整備効果と課題

【効果】

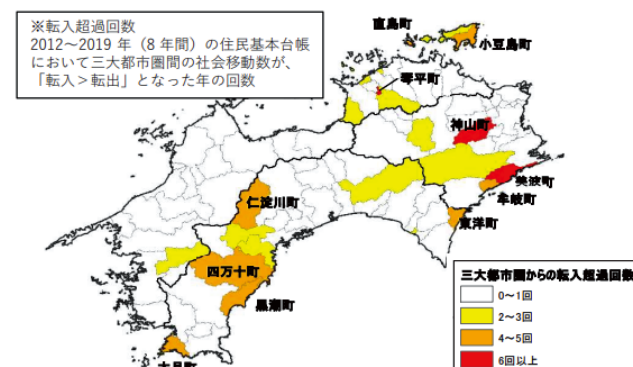
■「多様な働き方」の受け入れによる交流人口・定住人口の拡大。

「二拠点居住」のモデルにも。

(参考)四国経済連合会「四国が目指す将来像」(2022.4)より

<p>D 関係人口増を目指した誘引・定着施策の展開</p> <p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none">・ サテライトオフィス誘致などの好事例を参照し、四国特有の誘引、定着施策を展開し関係人口増加へ	<p>⑥四国内の関係人口づくり活動の有機的連携</p> <p>【例】四国各地での取組みを面的・複合的な活動に拡げ、関係人口づくりを広域的に展開</p>	<p>・ 四国の特性を活かしたユニークな誘引施策の検討・実践</p> <p>【例】・ 農業・漁業などの実体験機会の提供（一自治体一品型）</p> <p>・ 四国出身の著名人招聘による各種イベントの定期開催 など</p>
---	--	---

四国各市町村の、三大都市圏からの転入超過回数(2012～2019年)



▲四国の市町村における三大都市圏からの転入超過回数(2012～2019年)

出典) 住民基本台帳 住民移動報告年報

出典) 新たな四国圏広域地方計画素案

■既にサテライトオフィスを多く開設する徳島県の事例を、全国に横展開する

【課題】

■官民連携による、地域ごとに特色のある施策・施設の整備

・ 働き手の取り合いにならない施策

■地域において、新しい働き手、移住者を受け入れる体制の構築

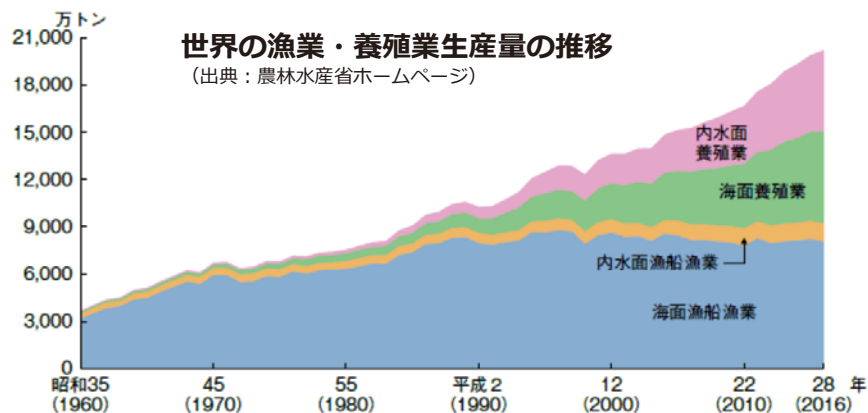
・ 住民の理解活動推進 (ex. 神山町: 住民への新設設備見学ツアー実施)

提言プロジェクト ⑦

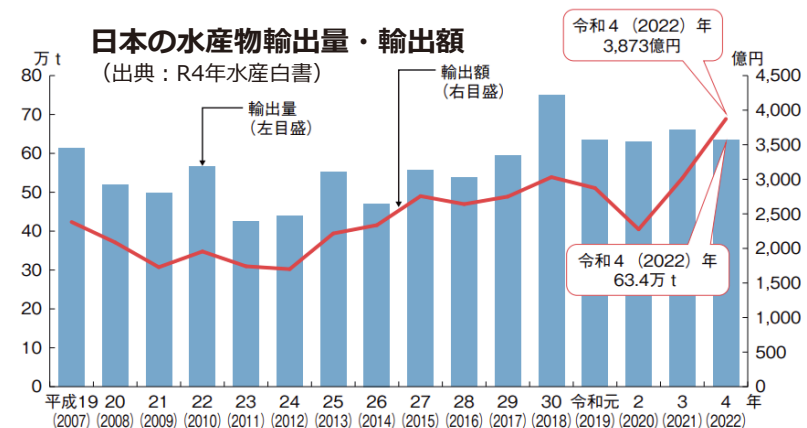
次世代養殖拠点

四国の養殖漁業の現状と課題

- 世界の養殖市場は、今後も大きく拡大
⇒世界の食の安全保障へ、日本の貢献可能性は大きい
- 日本は、2030年までに、**水産物輸出目標を1.2兆円へ**
水産物輸出重点品目として、ぶり、たい、ほか3品
⇒**国の拡大戦略として、愛媛県は「今後育成すべき国内産地」と位置づけ**
- 愛媛県の漁港数は全国第3位、海面養殖は国内シェアの20%以上
魚類養殖業生産額・生産量 No.1(主にたい、ぶり)
⇒**愛媛県は、日本の養殖漁業をリードする存在、飛躍のチャンス！**



資料：FAO「Fishstat (Capture Production、Aquaculture Production)」(日本以外の国)及び農林水産省「漁業・養殖業生産統計」(日本)に基づき水産庁で作成



資料：財務省「貿易統計」に基づき水産庁で作成

四国の養殖漁業の現状と課題

- 愛媛県の魚類養殖生産は、全国一だが、国内市場は人口減と共に縮小、生産は過剰傾向(特にマダイ)
- 長期的な魚価の低迷、飼料高騰による漁業者の経営難、従事者数は30年で1/3以下、漁業の衰退がまちの衰退へ直結
- 既存養殖海域は、養殖(飼料)による海洋汚染がボトルネック

日本再浮上・四国創生のために、愛媛の養殖産業をアップデート！

●持続可能な次世代養殖システムの海外輸出を見据えた産業化と競争力強化

- 一次世代養殖基盤の集中整備
- 生産コスト低減・海洋汚染防止・持続可能な養殖のための技術開発
- 生産～流通～販売のDX化と連携体制構築と、グローバル目線での価値の向上

●持続可能な次世代養殖、更には地域創生の要となる人材育成拠点化

- 漁業経営の改善と、次世代人材の確保のための育成プログラム
- 持続可能な漁業を地域資源に、観光業の創出等、地域に根付いた人材の育成

●輸出倍増にむけたインフラ強化

「次世代養殖拠点化プロジェクト」の提言①

□拠点化エリア：愛媛県南予地域・宇和島市～愛南町

—持続可能な次世代養殖システムの海外輸出を見据えた産業化と競争力強化—

- ①宇和海海域(宇和島港～愛南町)を中心に、「**広域次世代養殖・持続可能な養殖モデル地域**」として育成、次世代養殖施設の官民連携による整備の促進(AI・IoT等スマート養殖技術/環境負荷低減技術を活用した養殖システム)
- ②地域連携の海外輸出可能な水産加工施設(HACCP_※等対応施設)の整備と共同利用の仕組み構築による**輸出環境整備**(愛南/宇和島各漁港エリア)
- ③当該エリアにおいて、民間企業の養殖事業参入のための、自治体・漁協連携による**包括的な支援・調整体制の整備**(漁業権の調整機能/規模拡大のための委託養殖事業の支援機能)

※HACCP:食品等事業者が食中毒菌汚染や異物混入などの危害要因を把握し、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去または低減させるために特に重要な工程を管理する衛生管理の手法。各国で採用されている。



「次世代養殖拠点化プロジェクト」の提言②

一持続可能な次世代養殖、更には地域創生の要となる人材育成拠点化一

- ①大学・民間企業と連携した次世代養殖の人材育成プログラムの構築
- ②全国漁組と連携した漁業経営リカレント教育の支援制度
- ③持続可能な漁業を地域資源に、観光業の創出等、地域に根付いた人材の育成、そのための地域・教育研究機関との連携
- ④自治体と連携した住環境整備(短期/長期/移住)

一輸出倍増にむけたインフラ強化一

- ①国道56号の高規格道路早期整備
- ②宇和島港における水産品輸出のための機能強化
(温度・衛生管理可能な保管施設/コンテナ用電源設備の整備/岸壁機能強化/カーボンニュートラルポート化の加速等)
- ③養殖拠点(南予エリア)のレジリエンス強化
(南海トラフ対応)
(各漁港における耐震強化岸壁の優先的整備)
(ヘリポート等を備えた防災施設の整備)

水産品輸出
機能強化

人材育成 レジリエンス
交流拠点化+ 強化

国道56号の高規格道路
早期実現(宿毛-内海)



地図出典:国土地理院

プロジェクトの推進方策(1)

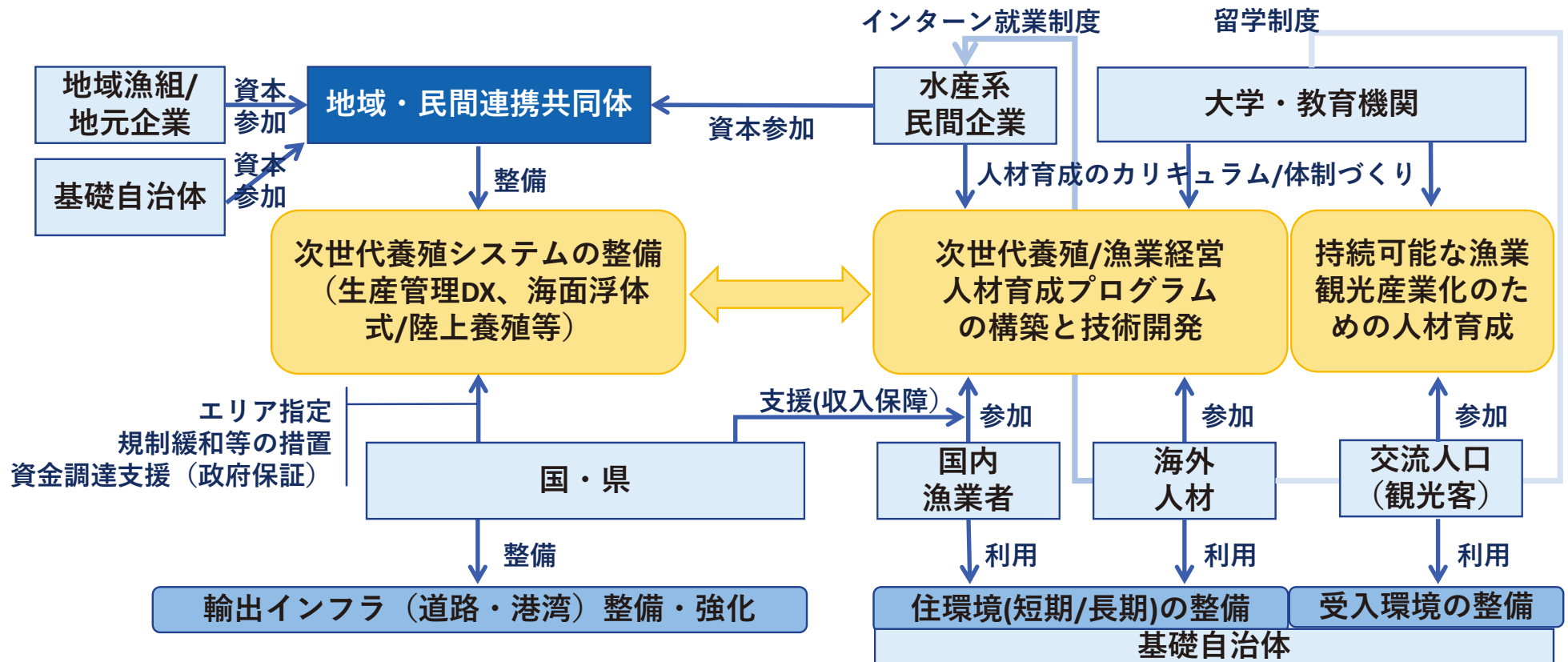
- 地元漁組や地元企業、水産系民間企業及び、基礎自治体の資本参加による、「地域・民間連携共同体」を組成
- 国の支援が得られるモデル地域において、「地域・民間連携共同体」が、「持続可能な次世代養殖システム」を集中整備
- 整備した「持続可能な次世代養殖システム」をフィールドに、地域の大学および水産系民間企業が、次世代養殖の「人材育成プログラム」を構築
- 教育・研究機関・自治体及び地元観光業界が、持続可能な漁業をテーマとした観光産業創出にむけた「人材育成プログラム」を構築
- 「人材育成プログラム」を学ぶ育成拠点へ、国内漁業経営者や、海外から人材が流入、同時に観光コンテンツ化することにより、交流人口も増加
- 流入人材の居住環境整備を基礎自治体を実施
- 国、県等は、「次世代養殖システム」で生産された水産物を海外市場へ輸出するためのインフラを整備
⇒生産力・人材・輸出インフラを同時並行で強化

ALL JAPANで、次世代養殖拠点を構築し、日本全体への波及効果を狙う

プロジェクトの推進方策(2)

持続可能な次世代養殖システムの海外輸出を
見据えた産業化と競争力強化

持続可能な次世代養殖の
人材育成拠点化



輸出倍増にむけたインフラ強化

プロジェクトの効果

■地域経済の活性化、まちの持続可能性の確保

養殖産業の更なる拡大、育成人材の定期的な流入による
地域内経済循環の増加

■世界における四国の知名度向上、四国の交流人口の増加

持続可能な養殖による“サステナブル・シーフード”の輸出拡大により、
四国の知名度向上と、魚介類のブランド価値向上、
四国の美しい海を活かした交流人口・インバウンド増加へ

■日本の養殖漁業の競争力強化と、食料安全保障の強化

モデル地域である愛媛から、次世代養殖システムを全国展開
日本全体の海洋資源の持続可能な利用を加速(SDGs目標14)



JAPIC国土・未来プロジェクト研究会
四国ブロック総合開発ワーキンググループ

(敬称略 50音順)

執筆者

主査	大内 雅博	高知工科大学 教授
	石崎 晶子	パシフィックコンサルタンツ(株)
	越智 修	元 五洋建設(株)
	林田 康洋	(一社)日本プロジェクト産業協議会
	山崎 隆司	元 東日本旅客鉄道(株)
	吉川 正嗣	(株)建設技術研究所

委員

	石崎 晶子	パシフィックコンサルタンツ(株)
	岩城 賢治	(株)復建エンジニアリング
◎	大内 雅博	高知工科大学 教授
	越智 修	元 五洋建設(株)
	北岡 泰成	(一社)日本プロジェクト産業協議会
	白木原 隆雄	(一社)計画・交通研究会
	永野 正展	高知工科大学 客員教授
	仁賀木 康之	(株)復建エンジニアリング
	林田 康洋	(一社)日本プロジェクト産業協議会
	藤本 貴也	パシフィックコンサルタンツ(株) (JAPIC国土・未来プロジェクト研究会委員長)
	丸川 裕之	(一社)日本プロジェクト産業協議会
	山崎 隆司	元 東日本旅客鉄道(株)
	吉川 正嗣	(株)建設技術研究所

(◎WG長)

地方開発プロジェクト計画 3
～SDGs時代の新たな地方活性化に向けて～

【四国ブロック】

～特色ある自然・文化・産業で魅力を世界へ～

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（JAPIC）

発行 2024年12月10日

発行所 一般社団法人日本プロジェクト産業協議会
〒103-0025
東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館6F

編集・印刷 株式会社 大應

©Japan Project-Industry Council 2024, Printed In Japan

